

魅力ある地域づくりに関する特別委員会 議事次第

（ 令和 7 年 6 月 26 日（木）
午 後 1 時 3 0 分 ～
於 ： 第 7 委 員 会 室 ）

1 開 会

2 所管事項の調査

「京都府が目指す魅力ある地域づくりについて」

3 閉会中の継続審査及び調査

4 今後の委員会運営

○ 管外調査

日 程：令和 7 年 8 月 26 日（火）～27 日（水）

5 そ の 他

6 閉 会

魅力ある地域づくりに関する特別委員会 出席要求理事者名簿

(令和7年6月府議会定例会)

【総務部】	
総務部理事 (自治振興課長事務取扱)	山 本 茂 樹

【健康福祉部】	
地域福祉推進課参事	井 谷 千 英

【総合政策環境部】	
総合政策環境部副部長 (子育て社会推進監付理事兼務)	白波瀬 衛
地域政策室長	吉 田 宏 則
地域政策室企画参事 (北部担当)	古 田 良 明
地域政策室企画参事 (中部担当)	仲 村 貴 人
地域政策室企画参事 (南部担当)	池 松 達 人
大学政策課長	河 野 勉

【商工労働観光部】	
中小企業総合支援課長	田 村 弘 之
観光室長	西 田 剛

【農林水産部】	
農林水産部理事 (経営支援・担い手育成課長事務取扱)	小 塩 佳 市
農村振興課参事	野 田 敦 司

【文化生活部】	
文化生活部副部長 (スポーツ・文教担当)	裕 伸 二
スポーツ振興課長	曾 我 学

【建設交通部】	
交通政策課長	坂 晃 昭

【公安委員会】	
交通規制課長	橋 本 昌 史

(計 16 名)

京都府が目指す魅力ある地域づくり に向けた主な取組について

令和 7 年 6 月

魅力ある地域づくりに関する特別委員会

特色あふれる各地域

丹後地域



海の京都

天橋立や伊根の舟屋などの**美しい景観**や**豊かな食**、**盛んな織物業**



中丹地域



海の京都



森の京都

江戸時代の**3つの城下町**、**舞鶴港**、**盛んな蚕糸業**



南丹地域



森の京都

面積の8割を占める森林など**美しい自然**や京の台所を支えてきた**食の宝庫**



乙訓地域



竹の里・乙訓

竹林が多く「**かぐや姫**」伝説**発祥の地**と言われ、**長岡京跡**も



京都市内

千年を超えて日本の都であった歴史を背景として、**日本の伝統や文化を育んできた中心地**



山城地域

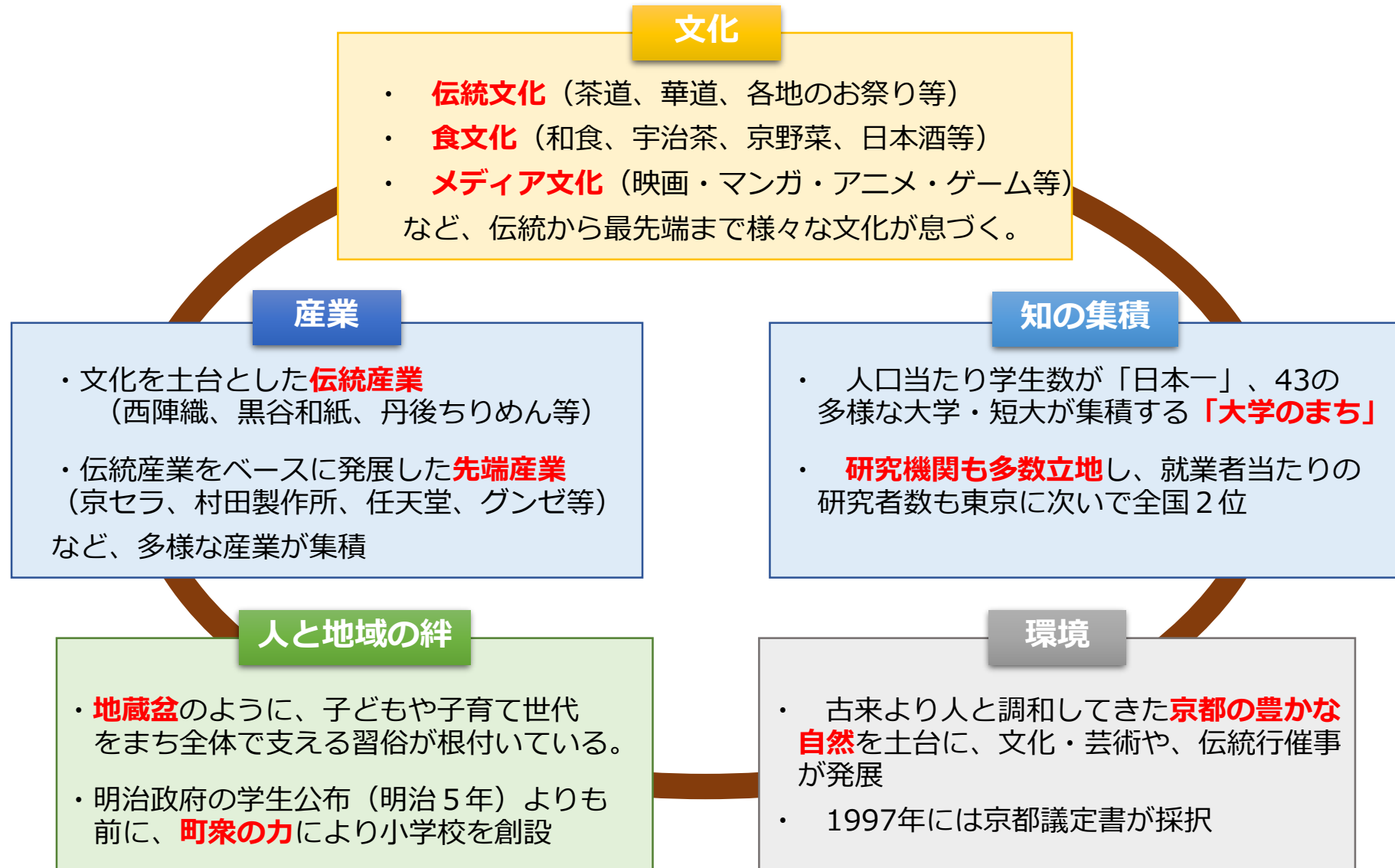


お茶の京都

日本を代表する**喫茶文化**を生み、**けいはんな**には**研究機関が集積**



京都府の主な魅力（強み）



※ このほかにも、「**官と民の距離感**が近く、**オール京都**の力を結集しやすい土壌」、「『伝統』に『革新』を重ねる**進取の気質**」、「今も息づく**日本人古来の心根**」など様々な特徴・強みを有する。

海・森・お茶の京都DMOによる 地域の魅力を活かした地域づくり

総合政策環境部
地域政策室

〇趣旨、事業内容、これまでの実績

「まちづくり支援法人」である3つのDMOにより、観光を入り口として、地域産業への経済効果の波及や移住・定住促進、関係人口の拡大を図る。

1. 着地型旅行商品の造成・販売 及び 人の流れづくり

- ・ アクティビティ等体験プランの商品化
- ・ ファムツアーの実施
- ・ 高付加価値商品の造成



螺鈿織見学、体験

2. インバウンドプロモーション 及び ビジネスチャンス創出

- ・ 海外商談会への出展
- ・ 地元受入体制整備



海外商談会出展

3. 観光地域づくりを担う人材育成

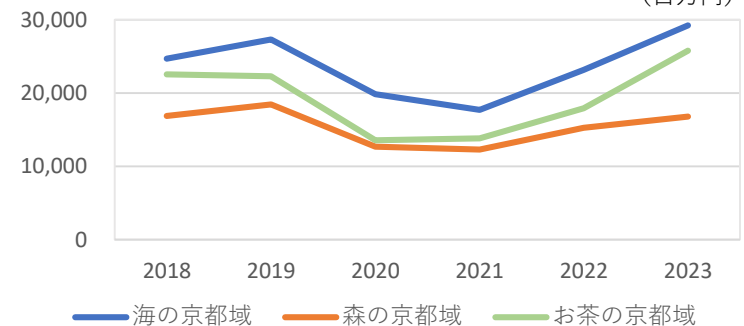
- ・ 観光ガイド、農泊人材の育成
- ・ 観光地域づくりマネージャーの育成
- ・ 観光関連ビジネスの開発支援



観光関連ビジネス講座

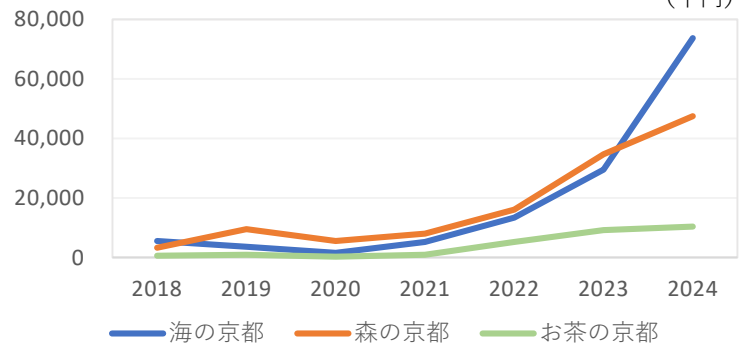
観光消費額の推移

(百万円)



DMO収益事業収入額の推移

(千円)



地域にお金が回る仕掛けを重視して事業展開

▶R7予算額（参考）「海の京都」・「森の京都」・「お茶の京都」DMO推進事業費 180,031千円

海・森・お茶の京都DMOによる 地域の魅力を活かした地域づくり

総合政策環境部
地域政策室



海の京都



宮津踊り体験



成相寺阿字観体験



踊り子さんによる宮津街中観光



森の京都



御城印めぐり



金継ぎ体験



亀京窯陶芸体験



お茶の京都



南山城 古寺巡礼 ツアー

奈良国立博物館で開催される浄瑠璃寺九条河原院修理工事完成記念 特別展「聖地 南山城—奈良と京都を結ぶ街の至宝—」に合わせ、当展示の舞台である南山城地域の古寺を現地ガイドとともに巡ります。奈良と京都を結ぶ南山城の歴史や文化、博物館で、そして、現地で体感ください。古寺では、特別展期間ならではの特別展示もご覧いただけます。

旅行代金
大人お一人様
2,500円 (税別)

集合場所
奈良国立博物館

お問合せ
企画：お茶の京都DMO（総料理人：京都山崎城跡歴史館）
主催：近畿日本ツーリスト株式会社 京都支店
TEL：04-6535-7973（トラベルデスクセンター）
TEL：04-6535-6648
申込期間：平日 10:00-17:00 WEB：パンフレット

各コースの紹介

開催期間：7/21(金)～9/3(日) 移動手段：ジャンボタクシー及び徒歩(定員8名)

Aコース(水・土曜日)：奈良国立博物館……浄瑠璃寺……岩船寺……JR木津駅
所要時間：2時間30分 12:15発

Bコース(木・日曜日)：奈良国立博物館……大御堂観音寺……海住山寺……JR木津駅
所要時間：3時間 12:15発 15:15着

Cコース(金曜日)：奈良国立博物館……神童寺……蟹満寺……近鉄 新祝園駅 JR祝園駅
所要時間：2時間30分 12:15発 14:45着

※開演は予定です

※開館のツアーはこの広告では受け付けておりません。正式なWEBパンフレットのご無用条件をご確認の上、お申し込みください。

〇趣旨、事業内容

- ・令和6年4月の府市トップミーティングにおいて、京都市の一部地域に集中する観光客を分散させ、持続可能な京都観光を実現するため、府市で連携した周遊観光の促進に取り組んでいくことで合意
- ・京都市内の一部地域に集中する観光客の分散化に向け、府域の「もうひとつの京都」と、京都市の周縁部地域である「とっておきの京都」の周遊観光を「まるっと京都」とキャッチコピーを付け、周遊ツアーの造成や情報発信等を実施

〇これまでの実績

- ・キャッチコピー・ロゴマークの作成
→「まるっと京都／Go Around Kyoto」
- ・「まるっと京都」周遊ツアーの造成
→7事業者30コース実施、1,995人が参加
- ・ファムツアーの実施
旅行事業者・メディア等を対象に、府市の多様なエリアを周遊するファムツアーを実施
→4コース実施、50人が参加
- ・雑誌・SNS等による情報の発信
→雑誌・WEBマガジンへの記事掲載
→Instagramでの情報発信

【周遊観光の例】



地域の絆と交流を通じた 活力ある地域づくりに関する交通施策

建設交通部
交通政策課

○趣旨、事業内容

- ・人口減少により公共交通の利用者は減少傾向にあり、交通事業者の経営環境の悪化や運転士不足による減便、路線の廃止の拡大が懸念
- ・地域公共交通の維持・確保に向けて、地元住民・観光関係者などと連携した利用促進の取組を支援、推進

○これまでの実績

- ・京都サンガデザインのラッピング列車の運行【R6～】
- ・宮津線開業100周年記念イベントを沿線各地で開催【R6～】
- ・沿線地域の企業と連携したクラフトビールコラボ缶の発売【R6～】



▶R7予算額（参考）地域公共交通利用促進事業費（66,000千円）

○ 趣旨

子どもたちがスポーツを通じて夢や希望を持てるよう、府内プロスポーツチームと連携したスポーツ体験教室や、様々な競技のトップアスリートとの交流等を促進することで、スポーツのすそ野拡大となる取組を展開し、ひいてはスポーツを通じた地域の活性化につなげる。

○ 事業内容

サンガスタジアム by KYOCERAにおいて、トップアスリート等を招聘し、子どもたちが様々な競技種目を体験できる交流会を実施

○ これまでの実績

・ R6年度「京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業2024『京都キッズスポーツフェスタ』」

実施日：令和6年9月28日

場 所：サンガスタジアム by KYOCERA

参加人数：約4,300人

クライミング



フライングディスク



サッカー



3X3 バスケット



ダブルダッチ



● 種目

- | | |
|---------------------|-----------------|
| (1) サッカー | 京都サンガF.C. |
| (2) バスケット | ハンナリーズ |
| (3) 卓球 | カグヤライズ |
| (4) 3×3 バスケット | KYOTOBB |
| (5) クライミング | 府山岳連盟 |
| (6) ダブルダッチ | OVER THUMPZ |
| (7) ブレイキン | MORTALCOMBAT |
| (8) ボッチャ | |
| (9) フライングディスク | 京都障害者スポーツ振興会 |
| (10) 陸上 (ジャベリックスロー) | |
| (11) 陸上 (50m測定会) | Y-TRAINING |
| (12) ウェルネスダーツ | 京たなべ・同志社スポーツクラブ |
| (13) バレーボール | 坂本清美氏 |

▶R7予算額（参考）京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業費（10,000千円）

○趣旨、事業内容

商店街の多機能化、多様な人材の集積及びネットワークの拡大を進めることで、商店街が地域コミュニティの核となり、地域と一体的に発展していくことを支援（令和3年度より実施）

（１）地域課題解決コミュニティ活性化事業

商店街等が、自ら又は多様な主体等と連携して、人と人のつながりの希薄化や商店街の空き店舗など、地域課題を解決するための取組を支援

【取組事例】

- ・商店街の空き店舗にコミュニティスペースを整備し、地元のNPOや学生等との連携した事業を実施することで地域住民の交流が進み、顔の見える関係の構築に繋がった事例
- ・まちづくり会社と連携して空き店舗を改修し、カルチャースクールを開催するなど地域の高齢者の外出機会を創出している事例

（２）商店街に関わる人材育成交流促進事業

- ・商店街の将来ビジョンづくりに向けて商店街の魅力を再認識するための研究会やデジタル化を促進させるための講習会など、商店街の課題解決のために必要な取組を支援
- ・商店街に関わる人材の交流を促進させ、多様な人材によるネットワークを強化するため、商店街創生フォーラムやネットワークサロンなどを開催

○趣旨、事業内容

移住促進条例に基づき、多様なニーズを有する移住検討者に対して、移住・定住に至るまでの各段階に応じた支援策を提供し、移住施策と連携した地域活性化を推進する。

※「移住するなら京都」については、総合政策環境部、農林水産部をはじめ全庁で推進

1 移住者の住まいの確保支援（空家バンク制度運営）

- ・ 空き家の取得又は賃借に係る居住するための改修支援
- ・ 空き家所有者による空き家の売却又は賃貸に必要な家財撤去支援

2 移住検討者に対する情報発信

- ・ 京都府移住情報サイト「今日と明日」運営
- ・ 都市圏の若者を中心とした移住検討者をターゲットにデジタルを活用した効果的な移住PR
- ・ 先輩移住者によるセミナーなど首都圏における移住検討者向けイベント開催

3 移住定住へのフォローアップ

- ・ 市町村の「移住者受入・活躍応援計画」に基づく交流促進等の取組支援
- ・ 地域団体による移住者受入地域の情報発信や空家の実態調査等の活動支援

4 移住者の仕事の確保支援

- ・ 農山漁村地域における移住者による起業支援
- ・ 都市・農村交流に意欲ある農林漁業者等による滞在型農山漁村体験受入に必要な施設整備等支援



必ず見つける、「推し京都」。
移住・交流フェアを今年も京都市内で開催します！



○これまでの実績

	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6
移住者数	288	326	552	658	604	559	676	594	616	577
累計区域指定数(*)		11市町 49地区	14市町 69地区	15市町 80地区	15市町 99地区	16市町 103地区	16市町 103地区	16市町 114地区	16市町 118地区	16市町 124地区

(*) 条例に基づく移住促進特別区域の累計指定数。本事業により、指定された区域を支援

▶R7予算額（参考）：「移住するなら京都」推進事業費（295,073千円）

○趣旨、事業内容

(趣旨) 京都の大学生が在学中に府内の地域や企業と交流し、地域や企業への理解を深める機会の拡大を図ることで、将来の京都を支える人材の育成・定着につなげる。

(事業内容)

京都府や府内の市町村・地域・企業から、学生や大学へ解決に向けた提案を求める課題を募集し、課題解決に参加する学生や大学を公募の上、学生・大学と市町村・地域・企業等とのマッチングを行い、学生や大学が課題解決に取り組む事業を支援する。

▶R7 予算額 (参考) 京都未来人材育成プロジェクト事業費 (24,500千円)

○過去の実績 (R6大学・学生とともにのばす京都プロジェクト共同事業)

- ① 京都府が大学・短期大学や学生と協働して府政課題の解決に取り組むプロジェクトについて、京都府と大学等との共同事業として採択し、事業実施に必要な経費を支援

○交付決定：23大学等、52事業

- ② 大学の枠を超えて、意欲のある学生を募り、学生チームを編成して地域等の課題に取り組む事業を実施

○事業内容:

- ・京都版ミニ・ミュンヘン in福知山における子どもたちの企画運営のサポート
- ・万博機運醸成のためのキービジュアル作成



〇趣旨

- ・令和7年3月に策定した農林水産業人材確保育成戦略に基づき、農林水産業の成長産業化を牽引する高度な専門人材と地域を支える多様な担い手等を確保するため、産学公民の連携により、農林水産業の分野横断で誘導から定着・経営発展までを一貫して支援

〇事業内容

- ・誘導段階：農業ボランティア・マッチング事業を林業、水産業に拡大して実施予定
- ・相談体験段階：農林水産業を一度に体験できるインターンシップを実施予定
- ・研修段階：府研修教育機関（農業大学校、林業大学校、海の民学舎）の学生を対象としたカリキュラム強化のための合同研修を実施予定
- ・就業段階：インキュベーションファーム等への支援を実施予定
- ・経営発展段階：農林水産業経営体を対象とした高度経営塾を実施予定



<推進体制>

- ・農林水産業の分野横断による誘導から経営発展までを一貫してサポートする司令塔として「京都府農林水産業人材確保・育成センター」を設置（4月1日）
- ・育成すべき担い手に応じた適切なメニューを提供するため産学公民の多様な主体で構成する「京都府農林水産業人材確保・育成ネットワーク」を設立（6月3日）

▶R7予算額（参考）

農林水産業人材確保育成戦略事業費（19,986千円　うち2月補正3,500千円含む）
京都農人材育成強化事業費（475,889千円　うち2月補正12,000千円含む）



○趣旨

中山間地域では、高齢化や人口減少等に伴い、地域共同活動の負担増加や生活インフラの質の低下などが顕在化してきており、今後もコミュニティを維持するためには、複数の集落が連携した地域運営体制づくりが必要

○事業内容

- ・ 農業法人など農業者を母体とした組織と、自治会、社会福祉協議会など多様な地域の関係者とが連携して、「農用地等の保全、地域資源の活用、農山漁村の生活支援」に係る将来ビジョンを策定し、調査、実証事業等の取組を実施
- ・ 京都府は、中間支援組織とともに、各地区の将来ビジョンの策定や、地域での話し合いの仕組みづくりなどを伴走支援

○これまでの実績

農村型地域運営組織形成推進事業

令和4年度採択 2地区、令和5年度採択 1地区、令和6年度採択 2地区

▶ R7予算額（参考）京のむらづくり推進事業費（133,200千円）うち

農村型地域組織形成推進事業（55,000千円）



地域での話し合いの状況



ラジコン草刈機の実証試験

きょうと地域連携交付金

○趣旨、事業内容

府と市町村、市町村相互の連携を強め、一体となった地域づくりを推進していくため、市町村が取り組む事業を支援することを通じて魅力ある地域づくりに取り組んでいる。

「地域づくり連携推進事業」、「市町村間連携推進事業」、「行政サービスの質向上・小規模市町村支援事業」、「大阪・関西万博連携推進事業」の4つの支援枠を設けているが、特に「地域づくり連携推進事業」については府の施策と相乗効果を発揮し、共に地域課題の解決に取り組む市町村の独自事業を支援している。

○これまでの実績

本交付金の実績のうち魅力ある地域づくりに資する主な取組として以下のような事業が市町村において実施されている。

- ・ 地域資源を活かしたエリアブランディング、周遊促進イベントの開催（舞鶴市）
- ・ 関係人口創出に向けたツアー造成（京丹波町）
- ・ 周遊観光を活性化するための多言語対応デジタルマップの機能強化や
バスラッピング（宇治市）

など

▶R7予算額（参考）：「きょうと地域連携交付金」（17億円）

○趣旨、事業内容

地域共生社会の実現に向けて、社会福祉法人が自ら実施する地域貢献活動等に必要な経費を支援

○これまでの実績

①地域貢献活動推進事業（地域住民との交流や居場所づくりなどの取組）

【取組例】 保育所の園児と地域住民（主に高齢者）とが野菜栽培を通じて交流できるイベントを実施
高齢者施設が主体となり地域交流カフェを運営し、地域課題解決の拠点として活用 等

令和6年度実績：52件 7,979千円

②災害対応力向上事業（災害時における地域の要配慮者等への支援）

【取組例】 福祉避難所として地域の要配慮者を受け入れるための簡易ベッド・トイレ等の備品の整備
災害時の非常用電源の確保 等

令和6年度実績：250件 29,972千円

▶R7 予算額（参考）地域共生社会実現サポート事業費（100,000千円）

○取組内容

【子供・高齢者を交通事故から守る対策の推進】

道路管理者等と連携した危険箇所の発見・改善、
ゾーン30プラス等による安全な交通環境の整備



【観光地等地域の交通実態を踏まえた諸対策の推進】

- ・ 交通事故分析、住民要望等を踏まえた歩行者優先で分かりやすく合理的な交通規制の実施・見直し
- ・ 関係機関との緊密な連携による渋滞緩和対策、臨時交通規制の実施及び交通規制の見直しによる観光地等における交通の整序化

(案)

令和7年 月 日

京都府議会議長 荒 卷 隆 三 殿

魅力ある地域づくりに関する特別委員長 田 島 祥 充

閉会中の継続審査及び調査要求書

本委員会に付されている事件は、下記の理由により、引き続き審査及び調査を要するものと認めるから、京都府議会会議規則第75条の規定により申し上げます。

記

1 件 名

大学の知と学生の力を取り入れた地域活性化、観光やスポーツを通じた様々な交流機会の拡大など、地域のポテンシャルの向上を目指した魅力ある地域づくりに関する施策について

2 理 由

審査及び調査が終了しないため

令和7年5月22日

京都府議会議長 石 田 宗 久 殿

魅力ある地域づくりに関する特別委員長 瀧 脇 正 明

魅力ある地域づくりに関する特別委員会中間報告書

京都府議会議事規則第46条第2項の規定により、令和6年5月府議会臨時会閉会後から現在に至るまで、本委員会が調査及び研究してきた状況について、別紙のとおり中間報告いたします。

(別紙)

魅力ある地域づくりに関する特別委員会中間報告書

1 本委員会の設置目的

大学の知と学生の力を取り入れた地域活性化、観光やスポーツを通じた様々な交流機会の拡大など、地域のポテンシャルの向上を目指した魅力ある地域づくりに関する施策について調査し、及び研究する。

2 本委員会の活動状況

(1) 委員会の開催について

- 令和6年6月7日、第7委員会室において、関係理事者から所管事項に係る事務事業概要について説明を聴取した。また、今期の委員会運営方針について協議を行った。
- 令和6年6月26日、第7委員会室において、「地域の絆と交流を通じた活力ある地域づくりについて」をテーマに委員会を開催し、関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取し、これに対する質疑を行った。また、今後の調査・研究テーマに係る委員間討議を行った。
- 令和6年10月1日、第7委員会室において、一般社団法人京丹波町観光協会（地域商社京丹波）事務局長 山下 稔 氏、京丹波町産業建設部商工観光課長兼プロモーション戦略室長 片山 健 氏を参考人として招致し、「地域商社による地域の魅力の強化・再発見について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、地域商社による地域の魅力の強化・再発見の取組について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和6年12月17日、第7委員会室において、京丹後市市長公室 政策調整監 川口 誠彦 氏、京丹後市市長公室政策企画課 主任 篠原 佳奈 氏、京丹後市地域おこし協力隊 松村 章 氏を参考人として招致し、「若者を対象とした地域への愛着を育む取組について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、児童生徒など若い世代を対象とした地域への愛着を育む取組について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和7年3月17日、第7委員会室において、中京大学スポーツ科学部スポーツマネジメント学科 教授 伊藤 央二 氏を参考人として招致し、「スポーツによる地域活性化の取組について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から

本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、スポーツツーリズムをはじめとした、スポーツによる地域活性化の取組について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。

- 令和7年5月22日、第7委員会室において、中間報告に係る協議を行った
最後に、今期1年間の委員会活動に係る所感、要望等の意見開陳を行った。

(2) 管外調査の実施について

以下の取組について調査を行った。

○調査日：令和7年1月29日

調査先：中津川市議会〔於：付知地域デザインミュージアム〕
(岐阜県中津川市)

調査事項：中津川市の持続的に発展するまちづくりを目指した取組について

中津川市では、人口減少と高齢化が進展する中山間地域の持続的発展、各地域拠点の魅力向上、交通インフラの整備効果の拡大といった地域課題に対し、リニア中央新幹線岐阜県駅（仮称）や中央自動車道（仮称）神坂スマートインターチェンジなど、新たな交通網と中心市街地や地域の拠点を結び、地域交通の維持向上に向けた取組や持続的に発展するまちづくりを進めている。

「超高速交通網との接続にむけた自動運転ネットワークの導入と地域拠点整備による新たな人の流れ創出事業」は、令和2年に連携協定を結んだ東京大学と共に取り組んでいる事業である。令和3年度に内閣府の「未来技術社会実装事業」に採択され、市北部の付知町地区をモデルとして、自動運転技術と新たな拠点の創出により、リニア等広域交通の整備効果の市内全域への波及と多拠点ネットワークによる集約型都市構造の実現を目指して事業を実施している。

自動運転技術の導入・運営に当たっては、人だけでなく農産物の出荷や生活品の配達など貨物輸送もあわせた効率的な運行や既存公共交通との連携、代替としての活用が検討されている。潜在的な需要を把握するための人・物の輸送に係る社会実験を実施しているほか、同地区内の狭小な道路や自動車と歩行者が混在する道路環境での自動運転車両実証走行データの収集、課題の洗い出しなど中山間地域での自動運転技術導入の検討、地域の歴史や資源等の地域情報も表示される自動運転予約アプリの開発などを進めている。

また、地域拠点として令和4年10月に開設された付知地域デザインミュージアムは、明治8年創業の割烹料理上見屋の建物をリノベーションしたものであり、令和6年秋には、2階部分が、宿泊施設、ワーキングスペースとして整備された。自動運転車両の停留所ともなっており、地域拠点を核とした様々な移動手段の活

用について社会実験が実施されている。今後さらに、にぎわい創出や地域拠点の活用などを進めていくとのことであった。

○調 査 日：令和7年1月29日

調 査 先：中津川市議会〔於：中津川市ひと・まちテラス〕（岐阜県中津川市）

調査事項：中津川市の持続的に発展するまちづくりを目指した取組について

中津川市では、3次にわたって「中心市街地活性化基本計画」を策定し、行政、商工会議所、商店街、地域などが一体となって、商店街の活力低下による中心市街地の衰退に対する取組を進めてきた。

第3次計画に基づき整備された「ひと・まちテラス」は、①子育て世代が集まるまちなか（中心市街地）の拠点、②市民や団体の様々な活動と交流の場、③コンパクトかつ開放的な学びの場としての図書館、④中津川市の文化を市内外の方に発信する場、の4つの機能を持つ複合施設として、令和5年7月15日にオープンした。同施設は、にぎわいの中心となる若者、子育て世代や女性が施設に集まることがまちの雰囲気を変えるという考えのもと、計画段階から市民の意見を聞くなど、開放された交流の場を目指している。また、立地を生かし、高校生が学校と家庭の間で集えるサードプレイスやイベントなどで人を呼び込むスペースなど、様々なニーズに対応できる汎用性のある空間を提供しており、まちの活性化に寄与している。令和6年12月までの入館者の累計は68万人を超え、その中でも市民団体の貸室利用が増えている。また、施設利用者数だけでなく、「まちなか」の歩行者通行量も増加しており、「まちなか」への人の流れが生まれている。

市は持続的な発展に向けて、令和5年5月に「中心市街地まちづくりビジョン・アクションプラン」を取りまとめ、「ここにしかないまち」をつくる取組を進めている。その中で、ひと・まちテラスでは「こどものワクワクのために『つかう』」「学生の学びのために『つかう』」の2つのシーンを目指す施設として位置付けられている。

今後は、引き続き、親子に遊びと体験の機会を作ることを目的とした小規模イベントを数多く実施し、一つ一つのイベントがつながることにより「いつも何かやっている」、人とまちを照らす場所を目指していきたいとのことであった。

○調 査 日：令和7年1月30日

調 査 先：岐阜市議会〔於：みんなの森 ぎふメディアコスモス〕

（岐阜県岐阜市）

調査事項：「シビックプライド」を醸成するための取組について

平成27年7月に開館した「みんなの森 ぎふメディアコスモス」は、岐阜大学医学部附属病院跡地に整備された複合文化施設である。市立中央図書館（知の拠点）、市民活動交流センター・多文化交流プラザ（絆の拠点）、ホール・展示ギャラリー・オープンテラス（文化の拠点）の3つの拠点からなり、滞在型図書館と市民の協働・市民活動サポートの機能を有している。

同施設では、シビックプライドを「これからも岐阜の地で楽しく豊かに暮らし続けていくために関わる人々の誇り・心情・心意気」と捉え、それを感じてもらうための取組を進めている。「岐阜にいたのに『知らなかった』岐阜を知る。」をコンセプトとする講座「おとなの夜学」は、開館から50回以上開催されている。図書館の開館時間中にマイクを使用するため、予約した参加者だけでなく、居合わせた来館者も聴くことができ、好評回はブックレットとして収蔵・販売されている。また、岐阜の地で楽しく豊かに暮らすための本棚「シビックプライドライブラリー」は、通常の10進分類法ではなく、テーマに沿った独自の分類で構成され、岐阜での楽しく豊かな暮らしを提案・発信している。さらに、施設の1階には「シビックプライドプレイス」（愛称「ぎふ古今」）を令和4年に開設した。「過去」の写真や地図を展示する「ぎふ歴史ギャラリー」、「現在」のおすすめスポットを紹介する「まち歩きステーション」、岐阜で活躍している人をカード形式で紹介する「岐阜な人カード」など、過去・現在・未来にわたる岐阜の魅力を伝え、人それぞれにシビックプライドを感じてもらうきっかけを提供している。また、これらのコンテンツを拡充しているのは取材や編集のスキルを学ぶ「メディコス編集講座」の修了者で、4期83名が講座を修了し、岐阜の魅力を伝える担い手となっている。

同施設では、中心市街地のにぎわい創出はもちろん、集まる人や情報をつなぐことが使命であると考えており、「屋根の付いた公園のような、多様で居心地のよい場所」「ひとが集い、憩い、豊かな対話が始まるサードプレイス」として、引き続き「ひとりひとりが自由に過ごせる」「ここに来るとワクワクする」施設を目指していきたいとのことであった。

○調 査 日：令和7年1月30日

調 査 先：滋賀県庁〔於：平和堂HATOスタジアム〕（滋賀県彦根市）

調査事項：「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」を契機とした地域活性化の取組について

滋賀県では、令和7年9月28日～10月8日に第79回国民スポーツ大会（国スポ）が、10月25日～10月27日に第24回全国障害者スポーツ大会（障スポ）がそれぞれ44年ぶりに開催予定である。「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」を

大会愛称に、「滋賀ならではの」の大会に向け、4つの項目に力を入れている。

①「アスリートにエールを」では、障スポの選手だけでなく補助者にもメダルを授与する。②「環境に配慮した大会」では、MLG s（マザーレイクゴールズ）（琵琶湖版SDG s）宣言やスタッフウェアに再生素材を100%採用する。③「おもてなしと滋賀の魅力発信」では、スポーツを支えるボランティア等とともに取り組む。④「誰もが主役として輝ける取組み」では、バリアフリー対策やカームダウンスペースの設置などをそれぞれ予定している。

また、大会会場となる県立スポーツ施設等の整備・活用とともにスポーツボランティアの普及など、両大会の開催に向けた環境整備を進めている。令和5年にオープンした平和堂HATOスタジアムは、県内唯一の第1種陸上競技場で、開閉会式をはじめ、両大会の主会場となる予定である。

県では、県内でのスポーツイベント開催、障害者スポーツの展開やプロスポーツの盛り上げなどによる機運醸成のほか、レガシーの創出等による地域活性化の取組を進めている。前回のびわこ国体の際には、ホッケー競技が米原市で開催されたことを契機にプロチームが誕生した実績もあり、今回も国スポ・障スポの開催を契機とした各地域に根差したシンボルスポーツの充実・創出を支援していく。さらに、中学校部活動の地域連携に向けた環境整備、eスポーツやアーバンスポーツなどの新しいスポーツの認知度向上、子どもたちのスポーツ振興などにも取り組んでいく。

スポーツを地域資源の核に育て上げ、魅力の好循環を生み出したいと考えており、今後もスポーツ振興の取組を通じて「からだところの健康の実現」と「地域の活性化」を目指していくとのことであった。

3 本委員会の所管に係る主な動き

- 令和6年7月、京都府知事と京都市長による第2回府市トップミーティングにおいて、府市連携による周遊観光の取組のキャッチコピーを「まるっと京都」に決定した。
- 令和7年3月、京都府は、京都アリーナ（仮称）の整備に向け、事業契約を締結した。
- 令和7年3月、関西広域連合は、コロナ禍からの回復や、観光・文化を取り巻く環境の変化を踏まえ、令和9年3月までの第2期計画の終期を待たず、令和7年4月から令和12年3月までの5年間を計画期間とする「第3期関西観光・文化振興計画」を新たに策定した。

4 残された主な課題

本委員会の設置目的に掲げられた諸課題について、調査及び研究を進めた結果、なお引き続き調査及び研究を要する次のような課題が残されていると考える。

- 地域内外における交流やつながりについて
- 地域の魅力の強化・再発見と地域と調和した持続可能な観光地域づくりについて
- 住み続けたいと思う地域づくりについて
- ミュージアムを中心としたまちづくりについて

魅力ある地域づくりに関する特別委員会 活動状況 <付録>

(令和6年5月～令和7年5月)

年 月 日	区 分	主 な 内 容
6. 5. 24	委 員 会	1 委員長の選任 2 副委員長の選任 3 副委員長の順位
6. 7	正副委員長会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 本日の委員会運営
6. 7	委 員 会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 所管事項に係る事務事業概要 4 今期の委員会運営方針 5 今後の委員会運営
6. 14	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
6. 26	委 員 会	1 所管事項の調査 「地域の絆と交流を通じた活力ある地域づくりについて」 2 委員間討議 「今後の調査・研究テーマについて」 3 閉会中の継続審査及び調査 4 今後の委員会運営
8. 27 ～28	管 外 調 査 (中 止)	▷ 美濃市議会 ▷ みのまちや株式会社・みのシェアリング株式 [於：まちごとシェアオフィス WASITA MINO] ▷ 岐阜市役所 [於：みんなの森 ぎふメディアコスモス] ▷ 春日井市議会 [於：高蔵寺まなびと交流センターグループふじとう] ※台風10号の接近により中止
9. 7	管 内 調 査	▷ 2024 体育館フェスタ開始式 (行催事等委員会調査)
9. 19	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
9. 28	管 内 調 査	▷ 京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業2024「京都キッズスポーツフェスタ」 (行催事等委員会調査)
10. 1	委 員 会	1 所管事項の調査 「地域商社による地域の魅力の強化・再発見について」 参考人：一般社団法人京丹波町観光協会(地域商社京丹波) 事務局長 山下 稔 氏 京丹波町産業建設部商工観光課長 兼プロモーション戦略室長 片山 健 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
10. 27	管 内 調 査	▷ 第47回京都府民総合体育大会オープニングフェスティバル オープニングセレモニー (総合開会式) (行催事等委員会調査)

年 月 日	区 分	主 な 内 容
12. 6	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
12.17	委 員 会	1 所管事項の調査 「若者を対象とした地域への愛着を育む取組について」 参考人：京丹後市市長公室 政策調整監 川口 誠彦 氏 同室政策企画課 主任 篠原 佳奈 氏 京丹後市地域おこし協力隊 松村 章 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
7. 1.29 ～30	管 外 調 査	▷ 中津川市議会〔於：付知地域デザインミュージアム〕 ▷ 中津川市議会〔於：中津川市ひと・まちテラス〕 ▷ 岐阜市議会〔於：みんなの森 ぎふメディアコスモス〕 ▷ 滋賀県庁〔於：平和堂HATOスタジオ〕
3.13	正副委員長会	1 確認事項 2 定例会中の委員会運営 3 今後の委員会運営
3.15	管 内 調 査	▷ 令和6年度大学・学生とともにのぼす京都プロジェクト 成果報告会 (行催事等委員会調査)
3.17	委 員 会	1 確認事項 2 所管事項の調査 「スポーツによる地域活性化の取組について」 参考人：中京大学スポーツ科学部スポーツマネジメント学科 教授 伊藤 央二 氏 3 閉会中の継続審査及び調査 4 今後の委員会運営
5.22	正副委員長会	1 臨時会中の委員会運営
5.22	委 員 会	1 中間報告 2 委員会活動のまとめ ※発言内容は別紙のとおり

委 員 会 7回 管内調査 4回
 正副委員長会 6回 管外調査 1回（2日）

※台風10号の接近により8月の管外調査を中止し、1月に実施

令和7年5月臨時会 委員会活動のまとめ

○森口亨委員

まずもって、瀧脇委員長、大澤副委員長、酒井副委員長、そして委員の皆様、また理事者並びに事務局の皆様方には、この1年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。瀧脇委員長及び事務局の皆さんにおかれましては、審査事項の設定や参考人招致など委員会活動すべてにおいて計画や事前準備等に御尽力いただきましたことを心から敬意を表しますとともに、感謝を申し上げたいというふうに思います。

この魅力ある地域づくりに関する特別委員会の設置目的は、大学の知と学生の力を取り入れた地域活性化、観光やスポーツを通じた様々な交流機会の拡大など、地域のポテンシャルの向上を目指した魅力ある地域づくりに関する施策について、調査・研究ということになっておりますが、この1年間の委員会活動において特に私が印象に残ったのが、管外調査でお世話になった中津川市の取組でございました。令和2年から東京大学と共同研究を進めてこられた超高速交通網との接続に向けた自動運転ネットワークの導入ということ、そして地域拠点整備による新たな人の流れ創出事業ということで、自動運転技術と新たな拠点の創出によりまして、広域交通の整備効果を市内全域に波及させるということと多拠点ネットワークによる集約型都市構造の実現を目指すという将来像を掲げられて、人口減少と高齢化の進展する中山間地域での持続的発展、各拠点の魅力向上に向けた取組、並びに高速インフラの整備効果の最大化を解決すべき課題だというふうに位置づけられておりました。新たな高速交通網と接続する地域拠点の設計が、地域での暮らしや活動をどのように支えて、地域の活力をどう維持できるのかなど、地域の持続的な在り方、特に中山間での地域の持続的な在り方について、私の暮らしております京都府北部との共通の課題も大変多く、参考にさせていただきたい事例でございました。

また同時に、中津川市では、ひと・まちテラスのほうにも行かせていただき、子どもから高齢者まで幅広い市民や観光客が集い、活動、交流されている中で、にぎわい創出と魅力発信に取り組まれておりましたが、近年批判されることの多い、いわゆる箱物と言われる施設について、未来を担う人づくりと活力あるまちづくりにつなげる推進するための施設ということで、積極的に箱物を活用されているということが新たな一面として大変勉強になったというふうに思っております。

最後になりましたが、委員会活動に御尽力賜りました視察先関係者も含めた全ての方々に心から感謝申し上げますとともに、委員並びに理事者の皆さんに心から御礼を申し上げたいというふうに思います。本委員会で学ばせていただきましたことをしっかりと生かし、京都府政に微力ながら貢献できるよう努力することをお誓い申し上げ、委員会活動のまとめとさせていただきたいと思います。1年間大変お世話になりまして、ありがとうございました。

○筆保祥一委員

それでは、私からまとめをさせていただきたいと思います。この1年間、本当に瀧脇委

員長をはじめ大澤副委員長、そして酒井副委員長におかれましては、この特別委員会の運営に多大なる御尽力を賜り、またこの場をお借りしてではございますが、御礼申し上げます。誠にありがとうございました。また、理事者の皆様方におかれましても、当方の質問に対し真摯に向き合い、的確な御答弁を頂戴しましたことに心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

さて、この魅力ある地域づくりに関する特別委員会の設置目的は、その関係要素が多岐にわたっており、1年間という限られた期間の中では、その内容を深掘り、そして研究していくことは非常に難しい内容であったのではないかと、今になって再認識させてもらっております。

1年間を通し数々のテーマを勉強させていただきましたが、特に印象深かったものを挙げるならば、人口流出問題に直面している行政の向かうべき方向性の1つを明示していただいた「若者を対象とした地域への愛着を育む取組について」であります。当日は参考人として京丹後市より政策調整監の川口様、そして政策企画課主任の篠原様、それとあと地域おこし協力隊の松村様を招致して、京丹後市の実施状況についてお話をお伺いしましたが、非常に考えさせられ、また非常に難しいテーマであったのではないかと感じております。地域における人口減、また人口流出対策の明確な答えが見つからない中、試行錯誤の上、京丹後市は地域、地元定着率にフォーカスを当てた施策を実施し結果、一定の成果が上げられておりました。手法としてはターゲットを若者世代に絞り、年齢別、人口動態上のその減少に歯止めをかけて、そして回復を目指した取組、小学生から地域素材を基にした副読本で年間20時間もの探究学習を行うなど、地道な活動を行ってきた結果、2015年から2020年の5か年だけを見ても19.4%の回復率を見せており、直近3か年では、移住転入者も含めてなんですが、回復率が過去最高を更新し続けているという状況でございました。少子高齢化や首都圏一極集中が加速する中、人口増の対策について各行政とも明確な回答は得られておりませんが、このような地道な施策も否定することはできなく、解決策の1つとしてよい手法であるなど勉強させていただきました。

また、管外調査におきましても、地域の愛着を醸成するための取組を行っている岐阜市において、人口減少が進む中、持続可能なまちづくりのためのまちファンを増やすために、シビックプライドと銘打っての各種取組を調査させていただきました。基本、この岐阜市においても地元愛の醸成を目指した取組であり、過去・現在・未来にわたる岐阜市の魅力を伝える情報集積のシンボルエリア、シビックプライドプレイスを拠点として、市民がより深く岐阜市を知るための講座「おとなの夜学」を毎年開催するなど、地元に対しての誇りや愛着を認識するための施策を実施されておりました。以前でありましたら、人口増の取組としては新規転入者に対する助成制度など、インセンティブを与えることによって転入人口増を目指すメニューを打ったり、また企業誘致など大掛かりな施策を打つのが一般的ではありましたが、このように個々人の心の奥底に定着させるような取組は、派手ではないものの着実性という意味では一過性のものではなく、継続的な人口流出抑止策としては非常に有効な手段ではないかと勉強させていただきました。

このように魅力ある地域というテーマの特別委員会は、おのずとその範囲や手法が広くなって、複数年かけて継続的に行うことによって、ようやく目指す一定の方向が見えてくる。一朝一夕では答えが見えない懐が深い委員会であったのだと今さら痛感しております。1年という短い期間ではありましたが、本当によい勉強をさせていただいたと思っております。

ます。

最後になりますが、委員の皆様並びに理事者、そして事務局の皆様方におかれましては健康に御留意され、これからも引き続き府民の皆様によりよい暮らしの実現に向け御尽力いただきますことをお願い申し上げて、私のまとめとさせていただきます。1年間、本当にありがとうございました。

○小鍛治義広委員

まとめとさせていただきますが、瀧脇委員長、そして大澤・酒井副委員長をはじめ委員の皆様、そして理事者及び事務局の皆様には1年間大変お世話になり、心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

この委員会の設置目的は、大学の知と学生の力を取り入れた地域活性化、観光やスポーツを通じた様々な交流機会の拡大など、地域のポテンシャルの向上を目指した魅力ある地域づくりに関する施策について調査し、研究するというものであります。所管事項の調査では、地域商社による地域の魅力の強化・再発見について、京丹波町の取組や若者を対象とした地域への愛着を育む取組については、京丹後市の取組、またスポーツによる地域活性化の取組についてなどを学ばせていただきました。

とりわけ、魅力ある地域づくりには持続性に関しても若い方の力が必ず必要となるため、いかに裾野を広げ楽しく活動していけるか、またSNSなどを活用しながら、この時代の流れに乗るという取組は、ほかの地域においても横展開ができるものであるなど強く感じた次第であります。

また、管外調査では、岐阜県の中津川市、岐阜市の地元での交通インフラの整備と効果の拡大などの取組やリニア等の広域交通の整備効果の市内全域への波及と、多拠点ネットワークによる集約型都市構造の実現を目指して事業を実施されていました。

滋賀県では、障害者を含むスポーツによって地域活性化を行う取組について学びました。

岐阜県、滋賀県とも京都府とは違い県庁所在地が政令指定都市ではないということもあり、各市町が独自の取組を一定の役割によって展開されているというのが強く心に残りました。

今後、残された主な課題としては「地域の魅力の強化・再発見と地域と調和した持続可能な観光地域づくりについて」や「住み続けたいと思う地域づくりについて」などが上げられていますが、課題解決のため皆で知恵を出し合って取組を前に進めていきたいと思いますので、今後ともどうかよろしくお願いをいたします。

これをもって私のまとめとさせていただきます。1年間大変お世話になり、ありがとうございました。

○小原舞委員

この1年間、瀧脇委員長、大澤・酒井両副委員長をはじめとして委員の皆様、そして理事者の皆様、事務局の方々、大変お世話になりました。

今回の特別委員会では、まず所管事項の調査においては、地域商社による地域の魅力の強化・再発見ということで、一般社団法人京丹波町観光協会の方々からお話を伺いました。この地域商社事業の取組においては、私の地元、京都府北部もそうなんですけれども、やはり地域の課題として若い世代の流出に関して、この3つのターニングポイントとして挙

げられていたのが大変興味深く、まず1番の人生最初のターニングポイントは、町内にとどまるか外に出て行くかは高校卒業後の進路、そしてUターンするのか、そのまま外で暮らしていくのかは、大学卒業後の進路が第2のターニングポイント、そしてまた、結婚・出産、子どもの入学が第3のターニングポイントで、都会でマイホームを購入したら将来的にもUターンの可能性は低いなど、大変参考になるお話も聞かせていただきました。

そこで、やはり働く場が必要だということで、企業誘致もいいけれども、個人事業が成長すると、そこに新たな雇用が生まれるという、この地域商社事業の取組が大変参考になりました。地元での農産物やまた空き家などを活用したような起業というのが地域への波及効果も大きいということで、これも地元の地域活性化の参考にさせていただきたいなというふうに考えさせていただきました。

また、このUターン政策の強化というのが私自身もすごく重要だと思っておるんですが、やはりそのためには働く場所の確保が非常に重要ということで、またUターンの方々が地元に戻ってくると、個人事業のおしゃれなカフェなどをオープンしていただいたりして、とても魅力的なものが出来上がると、住んでいる者のシビックプライドといいますか、まちの誇りにも魅力化にもつながっておりますし、こういった循環をつくれるように取り組んでいきたいなと感じさせていただきました。

もう一つは、京丹後市の地域おこし協力隊、地域コーディネーターの松村氏のお話が大変参考になりまして、地方こそ高校生を起点とした地域活性化の可能性が必要だということを感じたというお話がございました。学校での探究学習の取組も非常に重要でありますし、松村さんのような地域おこし協力隊の方が最近、地方に入って活性化に取り組んでいただいておりますけれども、データにはないみたいですが、7割ほど定着をされるということで、こういった地方活性化に外からの視線も重要だと切に感じさせていただきました。

最後、管外視察においては、私は岐阜市議会における、みんなの森ぎふメディアコスモスが大変勉強になりました。「シビックプライドを醸成するための取組について」ということで、この図書館が岐阜大学の医学部附属病院跡地に整備されておりましたけれども、この市立中央図書館は屋根のついた公園のような多様で居心地のよい場所をコンセプトにしてあって、人が集う憩いの場となるような様々な工夫があり、大変参考になりました。普通は、図書館は静かでなければならないというイメージがございましたが、普通の声で公園のように話したり対話をしてもいい、まさに公園のようでとても魅力的でありました。従来の県立図書館との差別化であったり、地域の人を巻き込んだ施設を生かす様々な工夫や発想が魅力的でありました。

結びに当たりまして、本委員会で学ばせていただきましたことをしっかりと生かし、京都府政につなげていけるよう、今後も精進してまいります。改めまして、委員会活動に御尽力いただきました全ての方々に心から御礼を申し上げます。1年間大変お世話になりました、ありがとうございました。

○迫祐仁委員

この1年、魅力ある地域づくりに関する特別委員会に参加させていただきました。理事者の皆さん、正副委員長並びに委員の皆さん、事務局の皆さん、本当にありがとうございました。本当に大変お世話になったなと思っています。

一番印象に残っているのは、今、お話もありました一般社団法人京丹波町観光協会の山下事務局長の京丹波町の目指した自治体初の地域商社のお話で、人材の地域定着を図っていきたいという目的で地域商社事業を始めていったとのことでしたが、過疎・高齢化が進む町で、その町の特色、食のまち京丹波町をしっかりと把握して、それに根差した産業の振興を図られてきていたと。しかも地元の須知高校の生徒さんたちにも地元で起業した中小業者の社長さんが講師として話をされると。また、インターンシップとして大学生や高校生などが就業体験を地元の企業で行って、町内にある企業や町のことをよく理解してもらって卒業していくと。府外の大学に入って卒業してから町内に帰ってきて就職されているみんなを大事にしているので、逆にみんなから頼りにされているのがよく分かるお話だったと思っています。

実際、これらの取組のよい面を京丹波町全体として、南丹地域、また中丹地域でも広げていけるように、府内全域へと広げていけるにはどういう問題があるのかと、どう解決したらいいのかということで、もっとこの特別委員会でも深く審議していくべきではなかったかなというふうに思います。

全国で見まして地域に人が集まる、人口が増えていくにはどうすべきかと、それぞれの地域でも同じように取り組みされているところがほかにもあるかもしれませんし、実際、またなかったらどう地域全体で地域産業などを発展させていくのかとか、理事者の把握されている情報も含めて、委員会としてこの審議をしていくべきではなかったかなということをおもっています。

だから、そういう点で、今後、魅力ある地域づくりに関する特別委員会でも、このこともしっかりと全国を含めて審議をしていく、この委員の中だけでも審議していくということが必要だなということをおもいました。そういう点で今後生かしていったほしいと思います。

この1年間、本当にありがとうございました。

○藤山裕紀子委員

瀧脇委員長、両副委員長をはじめ委員の皆様、理事者の皆様、そして事務局の皆様におかれましては、この1年間、大変お世話になりました、ありがとうございました。

8月の管外調査が台風で中止になるというトラブルはありましたけれども、参考人をお招きしての調査や管外調査を通して有意義な1年であったというふうに考えております。1年を通して魅力ある地域づくりということで、様々な地域での取組について拝見したりお伺いすることで、そもそも地域の魅力とは何を指すのだろうということを深く考えるきっかけになりました。魅力ある地域づくりという言葉は実際、様々な場面で出てきますし、もちろん重要なことですが、魅力を感じてもらって、例えば「住みたい」「住み続けたい」と思ってもらうことが目的なのか「訪れたい」と思ってもらうことが目的なのか、訪れたいの先に住みたいにつながれば、これが一番理想的なのかなとは思いますが、とはいえ「遊びに行くのはいいけれども住むのは違うな」というようなものもあるというふうに思います。この特別委員会は、地域のポテンシャルの向上を目指した地域の魅力づくりに関する施策について、研究・調査するという委員会ですけれども、まとめでさせていただく中で、ちょっとその点につまずくことがございまして、なかなかまとめきれないなというふうに思い、このまとめも感想ということになってしまいますけれども、

御容赦いただきたいなと思います。

私がこの1年で最も印象に残っているのは、先ほど来からもありましたけれども、岐阜市のシビックプライドを醸成する取組について調査した、みんなの森メディアコスモスでした。「知の拠点」「絆の拠点」「文化の拠点」として図書館やギャラリー、様々な交流施設などの複合施設ですが、これまで様々な委員会で調査のためにたくさんのまちを訪れましたけれども、住んでみたいなと思ったのはこのまちが初めてでした。そこで通りがかったその地元の住人の方に「この岐阜市の観光もして行ってね」とお声をかけていただきました。残念ながら視察でございましたので観光ということはできなかったんですけれども、こうやって自分の住むまちを見て行ってほしいなと思われているということがまさにこれはシビックプライド、自分の住むまちに誇りを持っていらっしゃるのだろうなというふうに思いまして、やはりそう思われるのには住みやすさというのが大前提にあるのだろうというふうに感じました。

そのときに、ふと京都市を思い浮かべまして、京都市はそのポテンシャルというのは大いに生かされているというふうに思いますし、まだまだ潜在的な要素もたくさんあると思います。住んでおられる方も、京都市に住んでいるという誇りも持っておられるのかなと思います。ただ住みやすいかと言われたときに、近年は過剰なインバウンドの問題などもあって、必ずしもそうとは言えない状況もあるというふうに思っております。

京都市は極端な例かもしれませんが、自分のまちがどういった方向を目指したいのかということを含めて、地域が選択していくのかなというふうにも思います。

一方で、故郷に魅力を感じて、また御両親とも同居されたいというふうな思いで、一旦は都市部に出られたものの帰ってきたいという方がいらっしゃっても、例えばその地域が農振地域で新たに家を建てることができなくて諦めたというような話も伺いまして、せっかく魅力のある地域でも制度や法律が壁になっているという事例もあるのかなというふうに思っております。

いずれにいたしましても、「自分のまちはいいよ」「ぜひ来てみて、住んでみて」と住人の方が言えるような、それぞれの地域がそれぞれの特色を生かして思い描かれる魅力あるまちづくりを進められるように、京都府としてもしっかりと支援して均衡ある発展につなげていただきたいと思いますので、理事者の皆様にはぜひともお願いしたいと思います。

また、引き続き、この特別委員会でもさらに議論を深めてくださいますことを期待いたしまして、私の感想とさせていただきますと思います。1年間ありがとうございました。

○北川剛司委員

ありがとうございます。今回、魅力ある地域づくりに関する特別委員会ということで、1年間お世話になりました。瀧脇委員長をはじめ大澤副委員長、酒井副委員長におかれましては、この1年間、本当に有効な議題と調査等をしていただいたことに感謝しています。また、理事者におかれましては、私の質問に真摯に答弁していただいたことに関しても感謝いたします。事務局におかれましては、円滑な運営が行われたことに関して感謝させていただきます。ありがとうございます。

今回、この魅力ある地域づくりに関する特別委員会ということで、本委員会の目的は皆さん言われていますとおりに、観光やスポーツを通じた様々な交流機会の拡大ということ

も含めて、3月17日に中京大学スポーツ科学部のスポーツマネジメント学科の伊藤教授にいろんな意見をお聞きしました。スポーツによる地域活性化の取組についてということも含めて、スポーツって本当に僕はいい手法の1つだと思います。今、京田辺市と精華町におきましては、ツアー・オブ・ジャパンということで、この19日から開催されました精華町、京田辺市のステージ、非常に多くの方々が見に来られています。その中で、だんだんその地域が自転車の聖地になってきています。そこをいかに走るかということも含めて、聖地化されてきています。

例えば、亀岡市であればサッカーでありますし、今度、向日市では体育館、アリーナ等が造られる予定はしていますけれども、そういうことも含めてスポーツは、1つの手段かもわからないですが、そういう1つの手段を持って魅力あるまちづくりというのも非常に大事だと思っています。

それと、管外調査でシビックプライドという考え方、以前に研修で受けに行ったことがあります。これは造語ですけども、やはり自分の都市の魅力を感じて、それを誇りに持って発信していくということは非常に大事なことです。この中に文化があったり、その中にも祭りがあったり、そういうことも含めて全体がそこに住んでいる人が本当に誇りを持てるまちづくりということも目指していかなければいけないということを今回、管外調査で調査をさせていただいて痛感しているところです。

今回、魅力ある地域づくりに関する特別委員会の中では、これをすれば必ず魅力ある地域づくりができるということの答えは出ていませんけれども、この特別委員会を行うことによって、委員、そして理事者、あと参考人から意見を聴くことによって、その市町において自分たちの本当に魅力ある地域をどうしたらいいかということも含めて考える1つの委員会だと私は思っています。

そこで、今回のこの委員会においても積極的な調査及び参考人に来ていただいて、専門的な話を聴いて、また委員会の中で情報交換をしながら行うことによって、よりよい京都府、また魅力ある地域づくりに関する施策が出てくるかと思います。今回、1年間お世話になりました。私もこれから魅力ある地域づくりに関して勉強をしていき、議員活動の中で施策の提言をしていきたいと思っています。この1年間、ありがとうございました。

○光永敦彦委員

正副委員長をはじめ委員の皆さん、そして理事者の皆さん、事務局の皆さん、本当にお世話になり、ありがとうございました。

魅力ある地域づくりというこの特別委員会は、私は本当に重要な委員会だったのではないかなというふうに考えております。それは東京への一極集中だとか激しい人口減少が地方に影響を与えていて、そしてその結果として地方の社会資源等が次々減少していつている、地域によってはなくなっている厳しい実態もある中で、その原因と責任をしっかりと踏まえて、どのように持続可能な地域を行政と住民の皆さんが協働してデザイン、具体化していくのか。そのために、腹を据えた取組が要ということをお互い勉強しながら論議していくと、そういう意味で非常に重要だったかなというふうに感じております。

その点で私の出身地でもある京丹波町の地域商社の取組は学ばされましたし、京丹後市の若者に対するアプローチも重要だというふうに感じました。

先ほど来、出ています中津川市等への管外調査も含めて、それらを通じてやはりどれも

息の長い取組と、そしてそれを支えるキーパーソンの育成ということ、そして働く場の確保、これらを支える公の役割、これらが本当に大事だということが共通の教訓ではないかなというふうに1年間やらせてもらって感じました。その意味で、京都府の理事者の皆さんには市町村や府民の皆さんと協働した現場での取組に、ぜひできるだけ現場に足を運んでいただいて、そして現場に学ぶだけではなくて現場の努力も含めて人間的な信頼、これをしっかりと醸成する、そして自治や自律的な地域づくりに取り組んでいけたらと。府の職員さんとしてしっかりその役割を、本庁の中で政策を考えるのも大事なんですけども、やっぱり人間的な信頼を現場で醸成するということがすごく大事なのではないかなと。これは府の職員さんだけではなくて我々もそうですし、市町村の職員さんもそうかと思います。国もそうですけれども、そういうふうに今後の地域づくりを考えるとときには大事なことなのではないかなというふうに思いました。

また、地域の人口減少の下で、やっぱり魅力ある地域づくりの論議するときに、どうしてもゼロサムゲームみたいなことになってしまうと、これは本末転倒かなと思います。やはり国レベルで予算の使い方、施策の在り方も含めた政策の転換がないと、個々の努力が本当に競争みたいになってしまって、地域の人口を取り合いみたいになるとこれは全く意味がないことになるので、京都府でできることは京都府でももちろん頑張るけれども、やっぱり国によるこの大きな問題というのが行き詰まっているかと思っていますので、それに対してどう提言していくのか、どう向き合うのかということも非常に大事かと思っています。その意味でも私たちももちろん、理事者の皆さんも広い視野でぜひ今後も検討いただいて、そして議論もこの委員会などでできていったらいいなというふうに思います。

なお、運営については1年間、議会のたびごとに参考人の方に来ていただいて意見交換させていただいて、それ自体は非常に勉強になったわけですけども、今、述べましたように、先進的な意見や努力を学ぶだけではなくて、それをどう生かすかという論議が本当に必要なわけです。理事者の方はそういう立場で実際施策をつくって努力されているんですけども、我々議会としても京都府の進んでいる方向がどうなのかとか、議会として京都府の方向をもっとこうすべきではないのかとか、そういう論議がもっと要ったかなというふうに思います。せっかく4回あって4回ともそういう方に来ていただいて学び合って終わるということだけではもったいないなという気はしますので、今後の運営については、ぜひ4回のうち2回ぐらいは京都府の在り方を理事者の皆さんとガチンコで論議するとか、あるいは4回来はったうち前半は参考人の意見聴くけれども、後半はそれを踏まえて論議するとか、そういう地域が深刻な事態なだけに、我々も京都府政にどうコミットするかということについて真剣に論議する場が持たれていくのが議会の役割の1つかなというふうに改めて感じました。委員会はまたメンバー替わるかと思っていますけれども、ぜひ今の意見は次の正副委員長さんや委員さんに引き継いでいただいて、非常に重要な委員会だと思いますので、真剣に理事者の努力に学びつつ、理事者についても議会として、あるいは議員として意見も言うというか、そういう取組になればいいなということも願っておりまして、そのことをもってまとめとさせていただきます。ありがとうございました。

○秋田公司委員

瀧脇委員長、大澤副委員長、酒井副委員長、そして委員の皆さん、それから理事者の皆様、事務局の皆さん、本当に1年間お世話になりました。

皆さんのお話を聞きかせていただいて実施された事業、また勉強、調査についてはもうおっしゃるとおりでございます。今、光永委員のほうから感想を述べられて、意見も述べられた。もう私も9割ぐらい光永委員と同じ意見でございます。なぜ結果がこれだけ違うのかなというのを考えさせられるところもあります。今の世界の情勢を見ていますと、トランプさんが一方的に関税をかけたりとか、経済安全保障で考えられないような現実が出てくる。また、世界各地で紛争がある。日本でも光永委員が最初おっしゃったように、東京一極集中の問題や、様々な問題があります。

私の持論として本当に不良設定問題が多過ぎて、ここには手をつけられないような状況になっている。地方議員としては皆さん、実感されていると思います。私は地方議員でありますから、地方議員として一番やれることは身近な問題を身近にいる議員がしっかりとその地域のためにしっかりとよい方向に持っていくというのが、私は議員としての一番幸せであり、また仕事であるというふうに思っております。

そうしますと、この委員会というのは、まさしく我々地元の議員が地元のことを理解しながら、行政と手を組んで問題、課題を解決して、目に見えて成果を出していけるところだというふうに思っております。

もう一つ、人を育てるであつたりとか、それから地域、魅力ある地域、躍動する経営体がある、いろんな利益を生み出すための経営体があつたりとか、教育とか福祉、また物流に関わる場所であつたりとか、いろんな経営体があるんですが、その経営体が健全に成長するということは、目に見えた目標とそれが確実に成功に向かって軌跡が見えるということが一番必要なことだというふうに思っております。

今、世界の西洋思想といいますかね、自由と民主主義であつたり資本主義であつたりとか効率化であつたりとか、またこういうものを見ておられますと、一番効率よく立ち回った者が偉いのではなくて、答えがもう見えなくなってきた。そこへ行きますと、東洋思想といいますかね、今のシビックプライドに帰するところなんですけれども、例えば自然と調和するとか足るを知るとか、そして自分たちのふるさとを誇りに思って、地域まるごと力を合わせて、いわゆる遅れた者も全部連れて行こう、先に行っている者はちょっと待ってくれと言って、地域全体が発展していくために隣の地域が悪くなってもいいなんて思っていない、隣もよくなって一緒にやっ払いこうと、こういう考え方が一番日本人に合っているし、それこそこれから世界がこれを見習うべきやというふうに私は思っています。

それなら、そのためにどうするのかということになりますが、先ほど光永委員おっしゃったように、もうこれは本当にそのとおりだと思いますけれども、職員の方が現場に出向いて、現場のことを理解して、そこで苦楽を共にして汗をかい、そして共に実感する、共感する、協働する、このことが人を育てる一番の近道というふうに私は思います。私はこの委員会を通じて、目の前にあること、極端な話を言えば、過疎地域で終わるということはない、身近にあるから何とかやろうと思ったら何とかなるんですよ。その思いと志を見つけて、そして働いていって共にやろうという人を共につくっていく。すばらしい委員会に参加させていただいて、この委員会をまた続けていただいて、自分たちで実感しながら地域をよくしていく、魅力ある地域をつくっていく、そのことをもっともっと光永委員がおっしゃった議論しようかということで、理事者共々議論しながらやっていくような委員会になればというふうに思います。

雑駁な話になりましたけれども、私のまとめとさせていただきます。本当にありがとう

ございました。

○酒井常雄副委員長

関係者の皆様、お世話になりました、ありがとうございます。私からは本委員会を通じて再認識させていただいたことをまとめさせていただきたいと思います。

魅力ある地域づくりには、地域資源である文化とか歴史とか自然環境であるとか地理的要因とかの活用が重要であると、このことはもとより言われてきたことです。

ところが、これに加えて地域が抱える課題を活性化の資源とすると、そのことへの発想の転換、そしてそれを実現するパワーが鍵になっているのかなというふうに全体を通じて感じたところであります。

一般的に地域資源とされているものだけではなくて、これまであまり注目されてこなかったことやもの、これまで課題とだけ認識されてきたもの、これらが活性化のエネルギーとなってくるんだなというふうにも感じました。この委員会でも「地域の絆と交流を通じた活力ある地域づくり」や「地域の魅力の強化・再発見」「若者を対象とした地域の愛情を育む取組」などをテーマに調査をさせていただきました。

管外調査でも人口減少と高齢化が進展する中山間地域の持続的発展や魅力の向上について、そして地域拠点整備による新たな人の流れ創出事業のように、課題をチャンスにする、例えばコンパクトシティの連結のような発想による地域活性化策についても調査をさせていただきました。

また、スポーツによる地域活性化の取組についても、スポーツをツールとして多文化、多国籍、多世代のこの交流による成果も感じたところでございます。魅力ある地域づくりへ向けた地域活性化の鍵、キーワードとなるものはほかにも子育て世代とか図書館利用であるとか若者であるとか学びと遊び、また体験、健康などがあって、ここでもこのキーを活用する人の重要性を再認識したところであります。

今後も地域の独自性とか地域主権であるとか地域尊厳をどう維持発展させていくのか学び続けたいと思います。1年間、ありがとうございます。

○大澤彰久副委員長

瀧脇委員長、酒井副委員長をはじめ委員の皆様方、理事者、事務局の皆様方には、初めての副委員長ということで不慣れな点多々ございましたが、1年間大変お世話なり、ありがとうございます。

当委員会におきまして、これまでにない経験や学びをさせていただき、また大変多くの方と出会い、気づきを得ることができ、人間的にも大きく成長させていただきました。改めて、感謝申し上げます。

先ほど来から委員の皆様方からお話ありました、令和7年1月の管外調査におきまして、初日に雪が舞い降る中、岐阜県中津川市に訪問させていただきました。中津川市も他の市町村同様、少子高齢化が進み、特に高齢化が著しいため、持続的に発展するまちづくりのため、岐阜県の東の玄関口としてリニア新幹線の新駅や車両基地の設置が予定されており、それを契機として新たな人流をしっかりとキャッチアップするための施策として、付知地域デザインミュージアムを拠点とした自動運転技術を試験的に導入されており、住民の生活利便性維持や観光客等の地域内への誘導、就業者受入促進に取り組まれておりました。

また、「ひと、まち、みらいを元気にする交流と学びとにぎわいの拠点」を基本理念として整備されました中津川市ひと・まちテラスは、中津川駅から近い中心市街地に子育て支援、市民交流、図書館を活用した学び、観光の4つの機能を集約した複合施設として子どもから高齢者まで幅広い年齢層に利用していただきながら、様々な企画や人との交流を通じて地元愛を育んでいける、そういった施設になるよう運営されており、大変参考となりました。

2日目には岐阜市にありますみんなの森ぎふメディアコスモスを視察し、「知の拠点」「絆の拠点」「文化の拠点」としてシビックプライドプレイス（ぎふ古今）を開設されたり、岐阜にいながら知らなかった岐阜を知るをコンセプトにした講座「おとなの夜学」を開催されたり、シビックプライドを醸成する様々な取組が実施されておりました。

また、面白い取組として「心の叫びを聞け！YA」。このYAはヤングアダルト、中高生という意味なんですけれども、YA交流掲示板では、今どきの10代の相談に図書館司書がウィットに富んだ言葉で答えるもので、手書きでアナログですが、笑いあり、そういう悩みがあるよなというような共感できる人間味あふれた心温まるもので、また町ライブラリーでは、図書館を通さずに市民同士が推薦図書を持ち寄り、貸し借りするシステムで、図書推薦者はなぜその本を推薦するのかをカードに記載し、また借りた側は読後の感想書き、それを数珠つなぎにするような、幅広い年齢層を巻き込んだ大変興味深い取組が大変参考となりました。

次の調査先である滋賀県彦根市にある平和堂HATOスタジアムは、令和7年度に開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開閉会式の会場として再整備され、県内最大の1万5,000人が収容できるスタジアムとなり、近隣の住民の方からは道路事情や音の問題等の懸念があったということでしたが、対話を重ね、また都市公園としての機能を生かし、住民の皆様に健康に関するイベントに参加していただきながら、理解を得てきたということでした。

滋賀県においても本府同様、スポーツをする・みる・支えるの3つの視点で、スポーツボランティアの普及やスポーツを活用した地域活性化等、国スポ・障スポのレガシーによる様々なスポーツ振興に取り組まれ、大変参考となりました。

令和7年3月の所管事項の調査では「スポーツによる地域活性化の取組について」をテーマに、中京大学スポーツ科学部スポーツマネジメント学科、伊藤央二教授を参考人にお招きし、オーバーツーリズム解消に向け、サプリメンタル観光行動を奨励するスポーツツーリズムに関する地域活性化がポイントになるというようなお話を聴講させていただき、本府の施策を進める上で大変参考になるのではないかと思います。

最後に当委員会におきましてすばらしい管外調査先や参考人をお呼びいただき、多くの学びや気づきをいただきました。今後、この1年間で得たものを府政や府民生活に役立てていけるよう尽力してまいりたいと思います。

以上で私から1年間のまとめとさせていただきます。誠にありがとうございました。

○瀧脇正明委員長

それでは、閉会に当たり、私から一言御挨拶を申し上げます。

昨年より大澤・酒井両副委員長をはじめ委員の皆様方には、委員会運営に際し格別の御協力を賜り、心より感謝を申し上げます。また、理事者の皆様、事務局の皆様におかれま

しても大変お世話になり、本当にありがとうございました。

今期は、前期からの課題である「地域内外における交流」や「地域の魅力の強化・再発見」「調和の取れた持続可能な観光地域」「住み続けられる地域づくり」等のテーマに加え、委員の皆様からの御意見を元に、人口減少下においても住民が輝けるにぎわいある地域づくりやUターン政策の強化、地域の公共交通の在り方などにも取り組んでまいりました。

その中で9月定例会では、地域商社京丹波の事業を通じた地域経済活性化への取組について大変参考になるお話を伺いましたし、12月定例会では、京丹後市における高校生と地域をつなぐ取組についてのお話を伺い、若者の地元定着やUターン促進に地域の愛着を育む取組の重要性を改めて感じました。

また、管外調査では、中津川市での地域公共交通の取組や地域交流の拠点づくり、岐阜市では拠点施設を中心に市民の誇りを醸成するシビックプライドの取組についてお話を伺い、市民の方がまちに魅力を感じるための多様な取組を学ばせていただき、大変参考になりました。

このように本委員会が所管する課題について、参考人や理事者の皆様から様々なお話を伺う中で、非常に有意義な調査・研究が行われたと感じております。理事者の皆様におかれましては、本委員会でも出された各委員からの御意見、御要望を今後の府政運営にぜひ反映していただきますようお願い申し上げます。

また、皆様の御協力のおかげをもちまして、初めて務めさせていただきました委員長の責務を大過なく果たすことができましたことを改めて御礼申し上げます。

最後になりましたが、皆様におかれましてはどうぞ健康に留意され、今後ますます御活躍されますことを心より祈念申し上げまして、私の御挨拶とさせていただきます。1年間、本当にありがとうございました。

魅力ある地域づくりに関する特別委員会 管内外調査実施状況

1 管内調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 9. 9	▷ 2023 体育館フェスタ
	9. 30	▷ 京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業 2023「京都キッズスポーツフェスタ」
	10. 29	▷ 第46回京都府民総合体育大会オープニングフェスティバルオープニングセレモニー（総合開会式）
6	6. 9. 7	▷ 2024 体育館フェスタ
	9. 28	▷ 京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業 2024「京都キッズスポーツフェスタ」
	10. 27	▷ 第47回京都府民総合体育大会オープニングフェスティバルオープニングセレモニー（総合開会式）
	7. 3. 15	▷ 令和6年度大学・学生とともにのぼす京都プロジェクト 成果報告会

2 管外調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 8. 22 ～23	宇都宮大学地域デザイン科学部附属地域デザインセンター（CRD） ・ 地域デザインセンターを中心とした地域連携の推進について ▷ 栃木県総合運動公園 ・ とちぎ国体のレガシー継承を通じた地域活性化について ・ 施設視察（日環アリーナ栃木、カンセキスタジアムとちぎ） ▷ 一般社団法人奥むさし飯能観光協会 ・ 森林の間伐対策問題とサステナブルツーリズムの推進について ・ 現地視察（喜多川キャンピングベース）
	6. 8. 27 ～28 (中止)	▷ 美濃市議会 ・ 歴史的資源の活用と古民家再生でつなぐ持続可能なまちづくりについて ▷ みのまちや株式会社・みのシェアリング株式[於：まちごとシェアオフィス] ・ 歴史的資源の活用と古民家再生でつなぐ持続可能なまちづくりについて ・ 施設視察

		・ 現地視察（NIPPONIA 美濃商家町） ▷ 岐阜市役所〔於：みんなの森 ぎふメディアコスモス〕 ・ 「シビックプライド」を醸成するための取組について ・ 施設視察 ▷ 春日井市議会〔於：高蔵寺まなびと交流センターグループふじとう〕 ・ 「高蔵寺リ・ニュータウン」の取組について ※台風 10 号の接近により中止
7. 1. 29 ～30		▷ 中津川市議会〔於：付知地域デザインミュージアム〕 ・ 中津川市の持続的に発展するまちづくりを目指した取組について ・ 施設視察 ▷ 中津川市議会〔於：中津川市ひと・まちテラス〕 ・ 中津川市の持続的に発展するまちづくりを目指した取組について ・ 施設視察 ▷ 岐阜市議会〔於：みんなの森 ぎふメディアコスモス〕 ・ 「シビックプライド」を醸成するための取組について ・ 施設視察 ▷ 滋賀県庁〔於：平和堂H A T Oスタジアム〕 ・ 「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ」を契機とした地域活性の取組について ・ 施設視察